一誌一句（受贈誌11・12月号他より）

米田　透　抄出

祈りひたすら白息も供華のうち　（萌）　三田きえ子

メメント・モリ風にふるえて冬桜　（波）　山田　貴世

前を向く者に時ある神の旅　（雲取）　鈴木　太郎

再会はしろつめ草の首飾り　（縹）　花房八重子

螢火の直線曲線闇深し　（暁）　桑田　和子

遠き世の栄華を踏みて露まみれ　（雪解）　古賀　雪江

秋澄むや石狩湾を一望に　（道）　田湯　岬

天窓は天使来る窓星月夜　（玉梓）　名村早智子

大寺の空傾むけて去ぬ燕　（山繭）　宮田　正和

遠富士の初冠雪や那須の原　（ろんど）　すずき巴里